

消毒方法について

1. 用水・排水の殺菌

(1) 殺菌

紫外線 4,000 $\mu\text{W}\cdot\text{sec}/\text{cm}^2$

(2) 殺菌のやり方

- ア 15 w の紫外線ランプ一灯で毎秒 1L の用水が殺菌できる。
- イ 水路式の流水路を用い、上部に紫外線ランプを吊り下げる。
- ウ 水深は 5 cm 以下とし、紫外線ランプの中心から水路底までを 10 cm とする。

(3) 注意

- ア 紫外線ランプの寿命に注意し、早めに交換する。
- イ 濁った水、ゴミ等の懸濁物があると殺菌が十分に行われないため、沈殿槽等を取り除く。
- ウ 紫外線の透過をよくするため、水の表面を波立たせないように注意する。
- エ 直接紫外線が作業者の見に入らないようにする。

2. 養殖池の消毒

(1) 消毒剤

有効塩素剤 200 ppm (高度サラシ粉、次亜塩素酸ナトリウム溶液)

(2) 消毒のやり方

- ア 消毒時間は 30 分～1 時間
- イ 水を 10 cm ～ 20 cm にはり、上記の濃度になるように塩素剤を散布する。
- ウ 固形の塩素剤の場合は、水に溶いて散布する。
- エ 池壁は、有効塩素濃度 200 ppm 液をジョーロで満遍なくかける。

(3) 注意

- ア 塩素系消毒剤は、皮膚刺激性、腐食性が強いため、消毒に際しては必ずマスク、手袋、メガネ及び合羽を着用し、薬剤が身体に付着しないようにする。
- イ 消毒の廃液を捨てる際には、必ずハイポで中和して排水すること。市販の塩素検出の水道水検査用キットで確認するとよい
- ウ 池消毒後の飼育用水には、地下水を直接注水すること。ウィルス汚染の可能性のある河川水や、既に魚を飼育した(している)池の水は使わない。

3. 使用後の池水の消毒

(1) 消毒剤

有効塩素 3 ppm (高度サラシ粉、次亜塩素酸ナトリウム液)

(2) 消毒のやり方

- ア 消毒時間は 30 分～1 時間
- イ 上記の濃度になるように塩素剤を散布し、よく攪拌する。池水に含まれる有機物により塩素が消費されることを考慮し、塩素濃度が 15 ppm となるように塩素剤を散布するとよい。

(3) 注意

- ア 塩素系消毒剤は、皮膚刺激性、腐食性が強いため、消毒に際しては必ずマスク、手袋、メガネ及び合羽を着用し、薬剤が身体に付着しないようにする。
- イ 消毒の廃液を捨てる際には、必ずハイポで中和して排水すること。市販の塩素検出の水道水検査用キットで確認するとよい

4. 飼育器具等の消毒

(1) 消毒剤

塩化ベンザルコニウム 0.1 % (逆性石けん)

有効塩素 200 ppm (高度さらし粉、次亜塩素酸ナトリウム液)

(2) 消毒のやり方

ア 器具等が十分に消毒剤に浸かるようにする。

イ 消毒後の器具等は水洗いし、乾燥させておく。

(3) 注意

ア 消毒剤は早めに交換する。

イ 塩化ベンザルコニウムは手あかなどで汚れてきたら効果なし。

ウ 塩素系消毒剤は、臭いがなければ効果なし。

5. 手指及び小型の実験器具の消毒

(1) 消毒剤

塩化ベンザルコニウム 0.1 % (逆性石けん)

アルコール系消毒剤 70 %

(2) 消毒のやり方

ア 手指・器具を十分に消毒槽に浸ける。

イ 消毒後の器具等は水洗いし、乾燥させておく。

(3) 注意

ア 消毒剤は早めに交換する。

イ アルコールはスプレーで使用する则効果的である。

ウ 塩化ベンザルコニウムは手あかなどで汚れてきたら効果なし。早めの交換。